

平成16年7月25日国際ロータリー第2640地区講演

「HIV感染の現状について」要旨

HIV感染症は、エイズウイルス（HIV）によって引き起こされる、感染症です。ヒトには、体の抵抗力（免疫）があり、普通の細菌やウイルスなどから体を守っています。HIVは、免疫の仕組みの中で重要なCD4陽性リンパ球に感染して増殖し、そのため、免疫システムが徐々に破壊されていく疾患です。

では、HIV感染の世界の現状はどうなっているのでしょうか。HIV感染者・エイズ患者数は、約4,000万人いると推測されています。2003年の1年間に感染した人は約500万人、エイズで死亡した人は約300万人に達しています。HIV感染者・エイズ患者の多くは、アフリカのサハラ砂漠の南に集中していますが、今後、アジア地域での感染拡大が懸念されています。

一方、日本の平成15年末のHIV感染者・エイズ患者の現状は、厚生労働省エイズ動向委員会の報告で、HIV感染者は640件と過去最高となっています。そのうち日本国籍の男性の感染者が525件と平成14年（481件）を大きく上回っています。日本国籍の女性は32件と昨年よりやや減少しています。HIV感染者報告例の感染経路は、性的接触が全体の83.4%（同性間55.6%、異性間27.8%）占めています。異性間性的接触による日本国籍のHIV感染者の年齢階級別構成で、15-19歳では女性が70.5%、20-24歳では女性が55.1%と他の年齢階級（男性比率が多い）とは異なっています。

エイズ患者の報告数も336件で平成14年（308件）より大きく増加し、感染経路も性的接触が67.6%を占め、その内、異性間接触によるものが39.0%を占めています。

このように、日本ではHIV感染は性的接触で、また、若い年齢層への感染の拡大がみられます。若者の性の行動が活発化している現状で、若者の行動の分析・理解するとともに、病気についての正しい知識、感染の予防など更に伝えていく必要があります。